

## 日本の伝統文様における 17 種類の文様群 (5)

中川宏

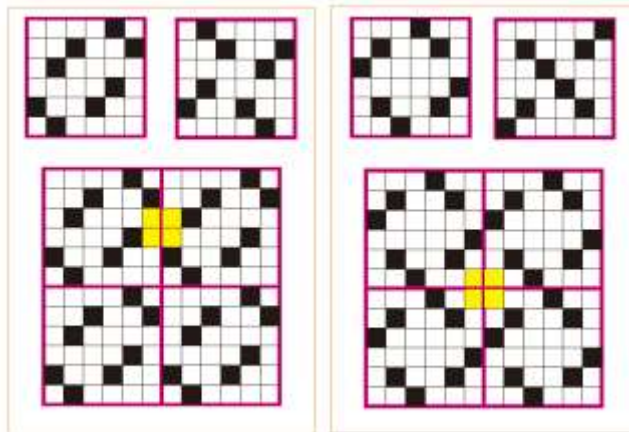
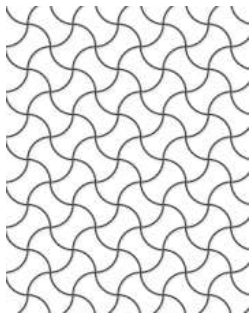
前回使った市松模様の基本領域が  $6 \times 6$  の方眼であったのは、**p4g** パターンを作るために必要な最小サイズであったからである。この点にも示されているように **p4g** パターンは複雑に込み入っていて人を惹きつける不思議な魅力を持っている。

自分で作ってみようとする、結構難しく、面白い。

試行錯誤の結果、 $6 \times 6$  の方眼を 4 等分して、 $3 \times 3$  の方眼とし、そこに作った模様を 4 分の 1 回転ずつさせたものを同じ回転方向に並べていくとできることが分かった。そのさい、結果的に別の文様群となってしまうものを除くと、以下の図の  $12 \times 12$  の方眼で示した 4 つのバリエーションがあることがはっきりした。いずれも、左右鏡映や白黒反転は同じとみなし、また、黄色い四角の 4 マスと同等の所を黒く塗りつぶすものも同じとみなした。黄色い四角の周りに着目すると、そこから風車のように伸びる腕の長さが 1, 2, 3, 4 のパターンが見て取れるだろう。

改めて日本の伝統文様をみても、これら 4 つのバリエーション全ても出揃っていることが分かった。

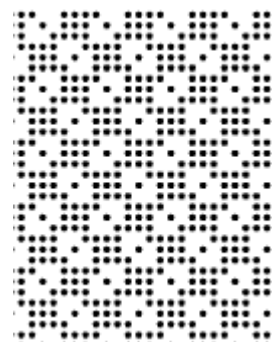
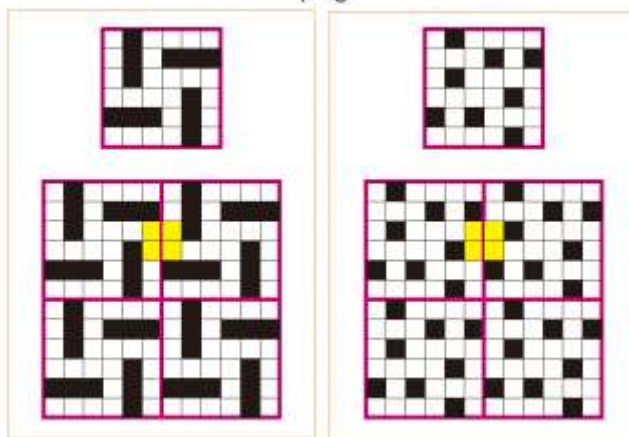
分銅繋ぎ



紗綾形

p4g

網代



賽の目